

環境審議会「循環型社会構築部会」報告

1 開催日時等

(1) 開催日時

令和5年11月1日(水) 10:00~11:15

(2) 開催場所

TKP エルガーラホール7階 中ホール1

(3) 議題

ごみ減量施策の実施状況等について

(4) 報告

プラスチック回収モデル事業について
事業系ごみ資源化推進ファンドについて

(5) 出席者(出席者8名、欠席者0名)

小出 秀雄	委員(部会長)	田中 綾子	委員
阿部 真之助	委員	中山 裕文	委員
大森 一馬	委員	久留 百合子	委員
平 由以子	委員	松藤 康司	委員

2 議題「ごみ減量施策の実施状況等について」

(1) 事務局からの説明概要

「循環のまち・ふくおか推進プラン」に基づき、ごみ処理量の推移やごみの組成割合のほか、令和4年度におけるごみの減量施策の実施状況等について説明した。

(2) 主な意見と考え方等

意 見	意見に対する事務局の考え方等
令和4年度のごみ処理量が既に目標値を下回っているのは、コロナの影響もあるため、コロナから回復してきた令和5年度の状況を見ていく必要があるが、この状況が続くのであれば、目標値の見直しを検討する必要があると考えるがどうか。	循環のまち・ふくおか推進プランは10年計画だが、5年ごとの実行計画で構成しており、第2期実行計画策定の際には、プラスチックの分別導入に向けての検討も含め、必要があれば目標値の見直しを検討していく。
大学等と連携した古紙回収事業については、学生にごみに対する意識を啓発する有効な取組みであるため、更に広げてほしい。	九州大学及び香蘭女子短期大学以外にも、令和5年度に福岡工業大学と連携し、ごみ減量・リサイクルについての講義や古紙回収を行う予定としている。 また、産学連携部署と連携しながら他の大学についても広げていきたいと考えている。
生ごみ堆肥化容器購入費補助や堆肥の回収や活用できる団体につなげる仕組みは非常によい。 一方、生ごみ堆肥化容器購入費補助金の手続きが非常に複雑で時間がかかるため、手続きを見直していただきたい。	生ごみ堆肥化容器購入費補助金の手続方法が市民の方にとって複雑であることは認識しており、より活用していただけるよう検討を行っているところである。

意 見（続き）	意見に対する事務局の考え方等（続き）
<p>天神ビックバンなどの再開発エリアにあわせたごみ減量施策が必要ではないか。</p> <p>また、インバウンドに関連するごみ減量施策についても、あわせて検討してもらいたい。</p>	—

3 報告「プラスチック回収モデル事業について」

参考資料1

(1) 事務局からの説明概要

令和4年度から実施しているプラスチック回収モデル事業の実施内容やプラスチックリサイクル体制の構築に向けた検討内容について報告した。

(2) 主な意見と考え方等

意 見	意見に対する事務局の考え方等
<p>プラスチック分別収集モデル事業のリサイクル状況で、マテリアルリサイクルが 52%となっているが、もっと上がっていくのか、それとももう限界にきているのか。</p> <p>素材的な理由や選別施設の能力による効率化の問題など、この程度にとどまっている理由を調査してほしい。</p>	<p>容器包装リサイクル協会が規定する施設が満たすべきマテリアルリサイクル率の基準が45%であることを踏まえると、本モデル事業の52%というのは高い方である。</p> <p>容器包装リサイクル法上、50%を超えた場合のインセンティブはなく、50%を下回った場合のペナルティのみ存在するため、再商品化事業者は 50%を目標として、それに最適な施設運営をしていると聞いており、率を上げるために、制度設計から考える必要がある。</p> <p>今後も他のリサイクル手法も含めて情報収集に努めていきたい。</p>
<p>今後、日本全国においてプラスチックリサイクルの手法に固形燃料化が取り入れられたら、固形燃料の出荷先の受入能力を超えることも想定されるので、出荷先の検討も必要だと考える。</p>	<p>固形燃料化が進んでいくのであれば出荷先も含めて検討が必要と考えており、他のリサイクル手法についても情報収集して、最適なものを選んでいきたい。</p>

4 報告「事業系ごみ資源化推進ファンドについて」

参考資料2

(1) 事務局からの説明概要

事業系ごみ資源化推進ファンドについて、ファンドを活用した主な取組みや、更なる活用に向けた今後の方向性について報告した。

(2) 主な意見と考え方等

意 見	意見に対する事務局の考え方等
<p>ファンドを活用した事業における効果や持続可能性について、検証した内容を部会で報告していただきたい。</p>	—